

桜は日台を結ぶシンボル

常務理事・事務局長 柚原 正敬
ゆはら まさたか

台北市・台北日本人学校

本会では日台の親善友好のシンボルとして平成十八（二〇〇六）年から台湾に河津桜の苗木をお贈りしてまいりました。そのたびに「桜募金」ということで皆様から浄財をご寄付いただいています。特に篤志者の方には多額の浄財をご寄付いただき、改めて御礼申し上げます。

桜苗木の寄贈先は、台湾側の事情により初期の李登輝之友会から蔡焜燦^{さいこんさん}先生が理事長を務められる現在の李登輝民主協会となりましたが、李登輝民主協会は南は烏山頭ダムから北は台北日本人学校まで植樹しているそうです。

昨年二月に行った「二〇一二台湾・

お花見ツアー」では、花蓮市にある国立東華大学に植えた桜と蔡理事長の和歌を刻んだ記念碑や美侖大飯店の桜の庭園を見学、また李登輝民主協会主催による夕食会、そして、もつとも早く河津桜を植樹した新竹で台湾の人々とお花見をしてまいりました。

今年は「二〇一三台湾・桜植樹式とお花見ツアー」を二月二十七日から三月二日にかけて行いました。蔡理事長には全行程にご同行いただける予定でしたが、あいにく体調を崩され、初日の台北日本人学校のみご案内いただきました。

李登輝民主協会が台北日本人学校に河津桜の苗木二十本を寄贈したのは、学校経営の母体である台湾日本人会と



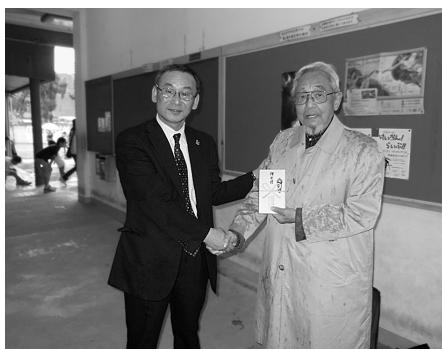
雨の中、校庭に植樹した河津桜（左）をご案内いただいた台北日本人学校の先生方（2月27日）

台北市日本工商会がそれぞれ五十周年と四十周年に当たった二〇一一年十一月のことだそうです。

この日は、あいにく気温も低く雨模様でした。校門から入ってすぐの校舎の軒下で、帽子をかぶってコートを羽織った蔡理事長が先生方二人とお待ちになっていました。やはり、体調が優れないようで、普通の顔色ではありません。それでも、河津桜を植えた場所まで案内しようとされましたので、案内は先生方にお任せいただきました。

校庭のはずれに河津桜は植えられていました。すでに花は終わっていました。すでに生徒たちが「カワヅザクラ」と手書きしたプレートが一本ごとに掛けられ、青々とした葉を雨に打たれながら、青々と育っていました。

実は、台湾では日本と同じように接木で株を増やす技術が高まっています。すでに苗木寄贈の「合意書」を交わしていたものの、李登輝民主協会からの申し出により、今年は今後の増殖の資としてご寄付をお使いいただくことと



体調のすぐれないところを出迎えていただいた蔡煜燦理事長に寄付金を手渡す柚原事務局長（台北日本人学校、2月27日）

なり、皆様のご寄付から六十五万円を蔡理事長に直接お渡ししました。

花蓮市・美侖大飯店

その後、一行は花蓮を目指して電車で移動。翌二月二十八日は昨年も訪れた、ゴルフコースと隣接している広大な庭が売り物の美侖大飯店を訪問。

この高級ホテルの広い庭には人工の滝やプールもあり、ここに庭をぐるりと囲むように三百本もの苗木が植えられています。フロント・マネージャー



滝やプールもある広大な庭園を囲むように河津桜が植えられ「櫻花林道」の立札も立つ美侖大飯店（2月28日）

の高水祿氏と庭を管理する黄勝裕氏に迎え入れていただき、昨年同様、河津桜が咲いている様子を写したホテルの絵葉書をいただいた後、黄勝裕氏に案内いただきました。確かに庭も桜も手入れが行き届いている感じです。

花はほとんど終わっていました。まだところどころに咲いていて、これが大きく育ったら見応えのある桜庭園になるだろうと期待は膨らみます。

台中市・員農種苗繁殖場

三月一日は、花蓮駅発の太魯閣号で一路、台北を通過して彰化に向かいました。まさか東側の花蓮から西側の彰化まで乗換えなしで行けるとは思いも寄らず、日本から輸入したという振子式の太魯閣号も至って快適でした。

驚いたことに、彰化駅には本会員でもある台中在住の黄木壽氏が出迎えて来ていただきました。彰化駅からは専用バスで台中市烏日区内にある桜板植所の「員農種苗繁殖場」へ。

この花卉農場には、台湾でも桜育成ではよく知られている「桜花張」と自ら名乗る張洲府氏がいます。かつて李登輝之友会に寄贈していたときにこの農場を仮植所として使い、私どもも訪問したことがあります。

員濃種苗繁殖場の前には出店が三店ほど出ていて賑わっていました。何事かと思って見ていましたら、なんと皆さん、手に手に桜の苗木をぶら下げています。桜の苗木を買いに来る人を当て込み、出店まで出ていたのです。

張洲府氏たちに出迎えていただきましたが、なんとそこには陳芳隆・烏日区長や台中国際ライオンズクラブの鄭浩宸会長やメンバーの方々も大勢来られていて、大層な歓迎を受けました。植樹式の儀式も整っているからと案内された広場には「歓迎日本李登輝友の会」の文字も麗々しく大書された横断幕も張っており、このサプライズにさらに驚かされました。

歓迎横断幕は大きく育った河津桜の



大歓迎していただいた張洲府氏（前列右2）や陳芳隆・烏日区長（前列右3）、鄭浩宸・国際ライオンズクラブ会長（前列右4）らと記念撮影（員濃種苗繁殖場、3月1日）

枝に結ばれ、これを背景にスコップで植樹式のセレモニーを行い、桜植樹式の醍醐味をたっぷり味わいました。

新竹市・新竹公園と十八尖山

員濃種苗繁殖場を後にした一行は、今度は新竹市に向かいました。新竹市は、平成十五（二〇〇三）年、日本から寄贈した河津桜を最初に植樹したところです。桜ツアーでは、その後の成長ぶりなどを見るためにほとんど毎年訪れています。



大きく育った河津桜と歓迎横断幕の前で国際ライオンズクラブの方々など桜植樹式セレモニー（員濃種苗繁殖場、3月1日）

桜は、水を好みますが水捌けがよくないと育ちません。また、風や犬などのオシッコも大敵です。そこで、寄贈を受けた新竹市李登輝之友会（張震天会長）では、新竹公園や新竹市動物園内に本植樹した約百五十本の苗木に一年間、毎日のように水を遣り、一本ごとに支柱を立て、その根本にフェンスまで張るといふ周到さをもって桜を育ててきました。また、新竹市は岡山市と姉妹都市を結んでいることから日本への理解も深く、市政府もこの桜育成

を全面的に支援しています。

三年前からは新竹市の主催により新竹公園で「桜祭り」も開催しており、今年も二月二十四日から行ったそうです。なんと今年は、着物姿も艶やかな女性も登場し、花の下で宴会を開く日本式「花見」も披露したとのこと。

新竹市に到着しますと、張震天会長がホテル近くのレストランで歓迎夕食会を開いてくださいました。そこに、これまで桜を育ててきた楊根棟氏や新竹市政府で担当するマーケティング部



今年の桜祭りでは「日本式花見」も行った新竹公園の入口で楊根棟氏（右1）や新竹市政府の担当者（左1・2）らと（3月2日）

の陳進來処長と洪明仕副処長も招かれていました。楊氏から「桜祭り」のポスターも見せていただきながら、文字

どおり桜談義に花を咲かせました。

翌三月二日は早朝から、張会長、楊氏、陳処長、洪副処長の四人がかりで河津桜が育つ新竹公園などを案内いただきました。それから「いいところにご案内します」と言って連れて行っていたいただいたのは十八尖山^{じゅうはつせんざん}という、市民の散歩コースにもなっている日本時代に造られた森林公園。ここにも河津桜



花祭りのオープニングセレモニーで許明財・新竹市長や国会議員、「花の女王」などとともに壇上で紹介される本会一行（十八尖山森林公園、3月2日）

を植えているといえます。

公園がやけに賑わっています。なんとこの日は十八尖山で花祭りが開かれる初日だそうで、許明財市長や新竹選出の立法委員、「花の女王」などが立ち会い、オープニングセレモニーが開かれるところでした。すると突然、私たちが日本から桜を贈っている団体だとアナウンスされ、会場から大きな拍手が湧き上がり、壇上で紹介されました。このサプライズには本当にビックリでしたが、市長はじめ皆さんが喜ばれている様子に心から感動しました。

その後、楊根棟氏の案内で散歩コースをたどり、河津桜が植えてある場所まで案内していただきました。

それから帰国の途に着きましたが、いささか慌ただしい桜ツアーだったにもかかわらず、今年も本当に充実した内容で、台湾でお世話になった方々に感謝の念で一杯の桜ツアーでした。

桜は日台を結ぶシンボルだと、さらに確信を深めたツアーでした。